



平成18年11月15日

各 位

会社名 株式会社紀陽ホールディングス
代表者 取締役社長 片山博臣
コード番号 8415 東証・大証第1部
問合わせ先 グループ企画部長 米坂 享
(TEL 073 - 426 - 7133)

平成19年3月期 中間業績予想の修正について

平成18年5月26日に公表しました、当社の平成19年3月期中間連結業績予想に関して、下記のとおり修正いたしますので、お知らせします。

記

1. 平成19年3月期中間期の連結業績予想の修正(平成18年4月1日～平成18年9月30日)
(単位：億円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回公表予想(A)	364	41	30
今回修正予想(B)	392	45	46
増減額 (B) - (A)	+ 28	+ 4	+ 16
増減率	+ 7.6%	+ 9.7%	+ 53.3%

() 当社(株式会社紀陽ホールディングス)単体業績の修正はございません。
なお、中間期を踏まえた平成19年3月期通期の連結業績予想につきましては、中間決算発表時(平成18年11月24日予定)に公表いたします。

2. 修正の理由

当社グループの業績におきましては、子銀行(紀陽銀行及び旧和歌山銀行)の影響が大きく、今回の修正も子銀行における業績変動によるものが殆どです。

経常収益につきましては、資金運用収益は当初計画比+14億円となる見込みです。内訳としましては、貸出金利息はほぼ計画通りとなる見込みであり、有価証券利息配当金が当初計画比+13億円となる見込みです。

また、役務取引等収益は当初計画比+3億円となり、その他業務収益は国債等債券売却益等により当初計画比+8億円となる見込みです。

経常費用につきましては、営業経費は当初計画を下回りますものの、与信費用（一般貸倒引当金繰入額＋不良債権処理額）や株式等売却損・償却などが当初計画を上回りますことから、当初計画比＋24億円となる見込みです。

（経常費用にあたります与信費用は計画を上回っておりますが、下記の通り、特別利益で償却債権取立益を計上しておりますことから、当中間期の与信コスト総額は、計画を下回る見込みです。）

以上により、経常利益は、当初計画比＋4億円の45億円となる見込みです。

さらに特別損益などにより、中間純利益は当初計画比＋16億円の46億円となる見込みです。

子銀行間の合併に伴う店舗統廃合の影響などから固定資産の減損損失12億円などを特別損失として計上しておりますが、特別利益として償却債権取立益を当初計画比＋15億円の26億円計上する見込みです。

以 上

【ご参考】

< 株式会社紀陽ホールディングス連結 >

（単位：億円）

	当初計画	中間期見込	差異
経常収益	364	392	+ 28
うち資金運用収益	275	289	+ 14
（貸出金利息）	219	220	+ 1
（有価証券利息配当金）	53	66	+ 13
うち役務取引等収益	62	65	+ 3
うちその他業務収益	19	27	+ 8
経常費用	323	347	+ 24
うち資金調達費用	27	30	+ 3
うち役務取引等費用	20	21	+ 1
うちその他業務費用	25	36	+ 11
うち営業経費	214	206	8
うち与信費用（*）	33	43	+ 10
うち株式等売却損・償却	0	7	+ 7
経常利益	41	45	+ 4
特別利益	11	28	+ 17
うち償却債権取立益	11	26	+ 15
特別損失	9	13	+ 4
うち減損損失	9	12	+ 3
税金等調整前中間純利益	43	60	+ 17
中間純利益	30	46	+ 16

（*）上記の与信費用は、一般貸倒引当金繰入額と不良債権処理額の合計であります。なお、償却債権取立益を含めました与信コストの総額は、17億円（当初計画比 5億円）となりました。